

伏山。

十歳以上の者に在つては、寄親又は主人から大横目まで届出を要し、又十一月から正月に至る三月は一般に蔭懸乗物を赦免するとあつた。町人にも町年寄の如き特に蔭懸乗物を許されたのもあつた。江戸に在つては、幕府から許可を得た老臣以外は、すべて乗物乗用を禁ぜられてゐた。勿論こゝに乗物といふのは、四手駕・垂駕・儀輿の如き軽易なものを指すのではない。

ノリモノヤシヨウチ 乗物屋小路 金澤の舊町名。南町の東小路で、西側の三井小路と相對してゐた。此の角家に乗物屋甚左衛門が居住してゐたによる名稱である。

ノリヤス 法安 鳳至郡北園山の内の小字。能登名跡志に、『狼煙。折戸より一里一町。家數六十軒許り。これより三崎の郷といふ。此村に川崎七郎左衛門とて、古き百姓あり。先祖は此邊の郷士にて、則ち城跡あり。磯山の風景よろしき地也。又家に傳ふる什寶あり。』とある。

ノロシジヨウ 狼煙城 珠洲郡狼煙にあつた。越登賀三州志に、『三崎郷狼煙村領城跡。土人其遺跡ありといへども不詳。川崎某居たりといふ。無傳。』文化十二年郡方書上に、『狼煙村往還の海へ指出たる地、云々。地形城山の形に似申候へ共、城跡と申傳無之、勿論堀礎も無之。』とある。

ノロシシン 狼煙新 珠洲郡三崎郷に屬する部落。村名由來書に、『此村元和八年村立出來、川田村と申由。其以後狼煙新村と村名替申候。由來相知不申候。』とある。
ノロシヤマ 狼煙山 ↓ヤマブシヤマ 山



バイ 馬醫 寛永四年加賀藩の士帳に、八十石伯樂福田三郎左衛門、同十一年士帳に二百石小將組療馬役久徳又四郎、二百石厩方組伯樂方田中十太夫、百五十石厩方組伯樂方藤喜右衛門とあるのは皆馬醫である。伯樂は寛文元年馬銀御定に『一人一疋、歩・小々將等・伯樂・坊主頭』と見えて御歩列であつたと見える。後世馬醫は六人扶持・役料三十俵を受けて、御馬奉行の支配となつた。

バイエンイン 梅園院 加賀藩主第七代前田宗辰夫人保科氏の法號。詳しくは梅園院心操紹源大姉。

バイオウ 梅翁 金澤淨土宗極樂寺の開山。殘響天月と號し、道譽に師事して宗乘を究めた。元和四年二月一日寂。

バイカ 梅下 ↓ウスキバイカ 薄井梅下。
ハイカイアリノママ 俳諧有の儘 ↓アリノママ 有の儘。
ハイカイカナザハゴギン 俳諧金澤五吟一册。天和三年三月金澤の俳人神戸友琴が、稻川正勝・村澤柳系・見好一風・宇野一烟と共に、五吟百韻四巻及び追加表一巻を作り、金澤堤町の書肆升屋傳六に出版せしめたものである。

ハイカイキタノハコ 俳諧北の箱 三册。京都の俳人方山が、元禄十二年四月から閏九月に至る間北國に杖を曳いた時の行脚句集である。

ある。金澤の北枝・牧童・小春・從吾、山中の自笑、小松のイ人、七尾の勤文などが見える。自序は元禄十二卯年初冬中句應々翁方山。
ハイカイキヨウカガサンシユウ 俳諧狂歌書齋集 一册。俳人關更編。年月不詳。大坂鹽屋忠兵衛板。宗鑑・貞徳等の畫像に、狂歌で費を加へたものである。中には俳人にあらざるものも混じて居る。

ハイカイシチブカイ 俳諧七部解 一册。俳人關更著。寛政六寅仲春木陰庵(車蓋)序。京井筒屋庄兵衛等板。題簽に初編冬の日とあるから冬の日解ともいはれる。續編は出版せられなかつた。

ハイカイセセツ 俳諧世説 二册五巻。俳人關更著。天明巳の春自序。京林權兵衛等板。芭蕉を初めその門下の逸話を録したものである。關更はより二十四餘年前湯涌温泉に遊び、北枝の書殘したもの及び希因から聞傳へた事を集めて、正風人物誌と題したのを、このたび刊行するに至つたのであるといふ。

ハイカイソウアンシユウ 俳諧草庵集 三册。金澤の俳人句空著。元禄十三年京井筒屋庄兵衛板。著者が眼病に罹つて、芭蕉の歿後未だその墓に詣でざるを悲しみ、故翁の遺墨『淋しきや針にかけたるきりぐす』をかゝげて追憶しながら編んだもので、その自序に元祿庚辰春小雨のころ加陽卯辰山下乞士句空とある。句空が蕉門諸家の句を集めた中、最も大部で且つ考證の資料に富むものである。

ハイカイソクシチブシユウ 俳諧續七部集 二册。俳人關更編。寛政乙卯冬の自序があり、享和三年の奈良屋長兵衛等板と野田屋等板とある。卯辰集・句塞・同追加・深川集・刀奈美山・

有磯海・小文庫・千鳥掛を収める。
ハイカイソテミヤゲ 俳諧油みやげ 稿本一册。鳳至郡黒島の俳人球トが妻文遊との紀行句集である。安永五年に成つた。
ハイカイツキアカリ 俳諧月あかり ↓ツキアカリ 月あかり。
ハイカイドメ 徘徊留 藩政の時、農民の微罪を罰するに、農業稼の外徘徊留・居村の外徘徊留・徘徊留があり、町人にも徘徊留があつた。共に禁足の義である。
ハイカイノキレ 俳諧のきれ 一册。石川郡本吉の俳人大睡編。京橋屋治兵衛板。大睡が老後風交ある諸士から得た句を集めたもので、自序に延享のはじめ子のとし桑門大睡としてゐる。

ハイカイハツカジヨウモンドウ 俳諧八箇條問答 一册。元禄七年秋北枝が芭蕉に就いて、俳諧は世間何の爲に好むや、俳諧二字の義理如何等八條を擧げて得たる答を記したものである。末に元禄八亥年仲春後世好士の紀念に翠臺北枝改書之とある。

ハイカイハナノフルコト 俳諧花の故事 ↓ハナノフルコト 花の故事。
ハイカイハルノタ 俳諧春之田 一名治豊酒。一册。天保十三年岡目峰奎の著、ひさ友團好校。正風夏冬堂藏板とあつて、その下に銅駝横槍之辻子半疊入所の印がある。天保十一年大坂の天來が七草を著して梅室を攻撃したのに對する辨妄であるけれども、又翌年梅室側から出した梅林茶談・露々志の反駁の拙なることを論破してゐる。題號の春の田は打返すの意である。梅室・天來の爭議を明ら

ある。金澤の北枝・牧童・小春・從吾、山中の自笑、小松のイ人、七尾の勤文などが見える。自序は元禄十二卯年初冬中句應々翁方山。
ハイカイキヨウカガサンシユウ 俳諧狂歌書齋集 一册。俳人關更編。年月不詳。大坂鹽屋忠兵衛板。宗鑑・貞徳等の畫像に、狂歌で費を加へたものである。中には俳人にあらざるものも混じて居る。
ハイカイシチブカイ 俳諧七部解 一册。俳人關更著。寛政六寅仲春木陰庵(車蓋)序。京井筒屋庄兵衛等板。題簽に初編冬の日とあるから冬の日解ともいはれる。續編は出版せられなかつた。
ハイカイセセツ 俳諧世説 二册五巻。俳人關更著。天明巳の春自序。京林權兵衛等板。芭蕉を初めその門下の逸話を録したものである。關更はより二十四餘年前湯涌温泉に遊び、北枝の書殘したもの及び希因から聞傳へた事を集めて、正風人物誌と題したのを、このたび刊行するに至つたのであるといふ。
ハイカイソウアンシユウ 俳諧草庵集 三册。金澤の俳人句空著。元禄十三年京井筒屋庄兵衛板。著者が眼病に罹つて、芭蕉の歿後未だその墓に詣でざるを悲しみ、故翁の遺墨『淋しきや針にかけたるきりぐす』をかゝげて追憶しながら編んだもので、その自序に元祿庚辰春小雨のころ加陽卯辰山下乞士句空とある。句空が蕉門諸家の句を集めた中、最も大部で且つ考證の資料に富むものである。
ハイカイソクシチブシユウ 俳諧續七部集 二册。俳人關更編。寛政乙卯冬の自序があり、享和三年の奈良屋長兵衛等板と野田屋等板とある。卯辰集・句塞・同追加・深川集・刀奈美山・